

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192200020		
法人名	社会福祉法人黒松内つくし園		
事業所名	グループホーム縁-ゆかり-		
所在地	北海道虻田郡倶知安町南3条西1丁目17		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192200020-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192200020-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成28年1月29日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、倶知安町の中心部にあり建物内外部から四季折々に美しく移り変わる羊蹄山をご覧になられながら、家庭的な暖かい生活をお送ることが出来る事業所です。また、1階部分には障害をお持ちの方の就労支援の場として喫茶店を営業しております。喫茶店には沢山の図書があり、同時にお子様をお持ちの方でも安心して利用して頂けるようにキッズルームも完備されております。その他にも地域交流スペースがあり、地域の方の会合や会議等に使用され、多くの地域の皆様方のご来店がございます。利用者様は、地域の皆様方との交流の場として、ご家族様との団欒の場として、ご自分の余暇時間の場として、ご自分のライフスタイルに合ったご利用が可能となっております。職員は事業所の基本理念の下、利用者様1人ひとりの思いを大切に、利用者様個人のニーズに合ったサービスの提供に努めております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム縁は、倶知安町の中心地にあり、地域交流拠点の3階に位置する1ユニットの事業所である。地域の歴史を作ってきた利用者の人生を受け止め、地域とのかかわりの中で生き生きと暮らせるような様々な取り組みを行っている。法人内の他サービスに従事した職員から刺激を受け、介護の知識や技術を共有している。特に認知症という特性を踏まえ人権意識を高め、地域の中で安心して暮らすことや利用者を尊重する姿勢などは、終末期にどのように利用者を支えていくかなど地域との連携を含めた取り組みにもつながっている。活発な地域交流はこの事業所の大きな特徴であり、2階にある事業所や法人内の他事業所と連携しながら、利用者がどんどん地域に出かけ楽しみを見つけられるよう職員が丸となって取り組んでいる。

#### V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・事業所基本理念と、ケア理念については毎朝ミーティング時に唱和を行っている。当法人の職員倫理綱領並びに、倶知安地区の職員宣言については、月一度の事業所合同会議にて参加職員全員にて唱和を行っています。	法人の倫理綱領に沿った理念を定めており毎朝職員が唱和している。同じ建物にある事業所と共通の理念であり、パンフレットにも掲載し職員が意識しながら支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	非常災害訓練や、つくしんぼ祭りにて、町内の活動団体や町内会の方の参加や協力を依頼しています。また、1階分が喫茶店になっており、日常的に地域の方々との交流を図れる場となっております。	事業所の1階が地域交流スペースとなっており喫茶店が併設されているため、一般の町民や子供達が集う場となっている。事業所行事にも地域住民を招いている。また町内会活動にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種行事に参加をして頂いたり、学生ボランティアの受け入れを行っております。また、つくしんぼ祭りの時には介護員が企画運営する介護教室の実施等も行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご助言頂きましたことについては、その月の会議にて報告を行い、ご助言に対する対応や対策など検討する機会を設けています。	運営推進会議は同じ建物にあるグループホームと合同で開催している。運営状況の報告や、地域との連携について話し合い、議事録は全家族に送付している。	会議の開催を日曜日に設定するなど家族の参加が得られるよう工夫を行っているが結果に結びついていない。参加者を増やし事業所として情報を開示し、信頼関係やネットワークを構築する場としても活用していくことを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問する際に、担当者との情報交換や打ち合わせの機会を設け、意見の交換などを行っております。また、月に一度開催される連絡会において、情報の交換を行っております。	利用者の福祉制度利用などで適時相談を行っている。身寄りのない利用者の成年後見制度利用申し立ての支援を倶知安町役場と地域包括支援センターと協力して行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、いつでも面会をして頂けるよう施錠はせず閉鎖的な施設にならないよう努めております。夜間に関しては、利用者様の安全を確保するために事業所内玄関の施錠を行っていません。また、居室部分に関しては施錠機能がありません。	身体拘束と虐待に関する内容の外部研修や内部研修を行っている。基本理念とケア理念の実現のための要件とし、生活の場である事業所の暮らしを支えるため身体拘束を行わず、リスクなどに対して予防と迅速に対応できる職員の育成に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会にて高齢者虐待防止法や人権擁護について講習を行うほか、提供されているサービスの検証を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待防止法や人権擁護についての内部研修を開催し提供されているサービスの検証を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行う場合は、常に疑問点や、質問事項について確認を行い、そのような場合には、ご理解や納得頂けるような説明等、ご利用者様やご家族様にも解りやすい説明に心掛けております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に日々のサービスや生活について、運営推進会議や、家族参加型の行事の際に意向を確認しています。その結果をもとに今後のサービス提供について検討を行い日々の業務の見直しなどを行っています。	年3回ほど家族が参加できる行事の企画を行ったり、定期的な事業所の便りと利用者ごとの担当職員からの報告を行っている。利用者の様子を伝え、意向や希望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会の設置及び会議を開催し、職員の情報の共有や意見反映を行っています。人事考課制度を導入していることから、年に2回職員個人の目標設定をし意識向上に努めるとともに、面接の際には相談等も受け解決に向けてよう努めています。	職員は全員がいずれかの委員会に所属している。役職によりリーダー会議や法人の地区運営会議などに出席し行事企画や改善点などについて発表を行っている。個別の面談もあり、様々な機会に職員の意向を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の会議や、給食・行事等の委員会の開催。事業所合同の会議、俱知安地区職員合同会議など開催し、職員の意見や意向を聞く機会を設けております。人事考課の際には、職員一人ひとりと面接し、意見や思いなどを聞き出せる機会をもうけております。夏季及び冬期休暇等の設立にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各外部団体主催の研修会に参加を行うほか、委員会主催による内部研修会の充実や、同一法人施設の職員が事業所にアドバイザーとして来訪し、職員への助言や提言を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の各介護支援事業所や介護施設等の職員が集まるケアカンファレンスに出席し、意見交換や情報交換を行っています。各外部団体主催の研修会に参加を行うほか、委員会主催による内部研修会の充実や、同一法人施設の職員が事業所にアドバイザーとして来訪し、職員への助言や提言を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の前には、直接ご本人とコミュニケーションを兼ねた面接を行い、情報収集の機会を設けております。その際に、ご本人のご希望や思いなどを受け止められるよう努力を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、訪問や見学等の際には面接等を行い、お話を伺う機会を設けております。遠方の方の場合には、お電話でのご連絡や、E-MAIL等でのご連絡も行うよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時やお電話での連絡時など、利用者様の近況をお話し情報を共有・把握し職員間での情報を共有することに努めています。ご家族様やご本人から相談を受けた場合、収集した情報を活かすことのできるよう支援させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の面接による情報や日々の情報収集から職員間で情報の共有を行い支援できるよう努めています。ここにいる事、必要とされている事や生きることの喜びや楽しみを感じて頂き職員も楽しみや苦しみ辛さや喜びを隣で共感しお互いが支えられる関係を築けるよう日々努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、利用者様の心身の状態等の説明を行い、遠方のご家族様につきましてはお手紙やお電話、E-MAILなどによりご説明しご家族様と一緒に利用者様の支援をさせていただくよう努めています。毎月、行事やイベントの案内を作成し一緒に過ごして頂くお時間を作れるよう努力しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、ごゆっくり過ごして頂けるよう居室・リビング、一階部分の喫茶店にご希望に合わせて支援させていただいております。また、ご希望時にはご自宅のご様子を見に行かれたり近所の方とのふれあえるよう支援させていただいております。	利用者が以前から利用していた商店や理美容店への訪問を続けたり、自宅を見に出かけたりしている。また、趣味活動のボランティアが利用者の知り合いだったことがあり、継続して訪問してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、調理や清掃など入居されております利用者様が協力し支えあっているよう声掛けや見守りなど支援させていただいております。食事等には職員も一緒に召し上がらせていただき利用者様間をつなぐ支援を行わせていただいたり、お茶の時間や各種行事などを企画・実施することにより交流を深められるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護施設や医療機関など求められている各機関への紹介やご案内など、退所されてからも安心した生活を送って頂けるよう支援させていただいております。ご希望時には入所申し込みの代行なども行い、関係を断ち切ることをないよう支援させて頂いております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などからご希望やご本人様の意向を収集しアセスメントを行い、できる限りご本人様の意向添えよう支援させていただくことが出来るように日々努めています。	利用者ごとに担当職員が決まっており、ケース記録や日誌に利用者の意向などを記載し共有している。外出などの意向も、利用者の希望が出た際に職員の判断で叶えられるようにして、すぐに対応できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接による情報や、日々の会話など生活の中で情報を交換し、その方らしい生活を送って頂けるよう支援させていただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でご本人様のご様子や状態を職員間で情報の収集を行い検討した中で、行えないことに対する支援や行えることに関しては、よりよい支援の提供など、利用者様にあった支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・職員とが話し合い計画を作成しております。概ね3か月ごとに評価を行い、必要時や身体状態が変られた場合は随時変更しております。	利用者の生活の希望を第一にしながら、3ヶ月おきにモニタリングを行い、介護計画が利用者の状況と合っているかを検証している。利用者の高齢化に伴い、利用者のできることを支援していくという視点を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成しており、計画の見直しや日々の情報に役立てるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の付き添い・病院の付き添い・それに係る送迎など随時行っております。一階部分が喫茶店と地域コミュニティーの場になっておりご希望時には喫茶店へ行きつらいで頂くと共に地域の方との架け橋になれるよう日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、町内の各行事に参加したりすることで、地域の皆様との関係を継続したり、親交を深められるよう支援させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入所前のかかりつけ医院への受診を行って頂くことを基本としています。協力医療機関を定めているために夜間などの緊急時には受診も可能となっています。受診時は職員の付き添いを行いますので必要な情報の提供や医師からの助言等生活に役立てるよう支援しております。	看護師が週2日勤務しており、医療との連携や適切な受診へのアドバイスを行っている。利用者が希望する病院への送迎や付き添いも管理者や看護師が行っている。医師との連携を行い、利用者の入院中も日中は事業所で過ごすなど早期退院の取り組みを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2日看護師が勤務を行い、利用者様の健康状態や医療面での相談等を行っております。必要時には、受診の対応や医療機関との連絡調整を行い、より安心して生活を送って頂けるよう支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に、入院先病院の医師・看護師などから聞き取り等を行っています。また、ご家族からのご相談やご意向も随時受け、できるだけご希望に添えるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	理念・基本方針を作成し職員に周知していると共にいつでも閲覧できるよう体制を整えています。実際に終末期と診断を受けた場合、医師・ご家族・ご本人様と職員で話し合い柔軟な対応を心掛けるよう努力していきたいと思っております。	利用者と家族からは事業所での看取りを希望する声が多い。事業所として入居時に終末期の方針の説明と同意を行い、医師から終末期が視野に入ってきた場合に改めて説明を受け事業所と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、避難訓練等を実施し迅速に行動し早期対応を行えるよう実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施のほかに、会議後等の時間を利用し必要設備等の使用方法等を確認するとともに、日々防災意識を持つよう意識向上にも努めています。訓練時には、関係機関や近隣住民の方々も参加されています。	避難訓練は年2回、昼間と夜間の想定で行っている。消防の立ち合いの下運営推進会議の参加者が見学を行っている。事業所は建物の3階にあり、居間には避難具も設置されている。	3階からの避難のため、訓練や地域への協力要請を引き続き行っていくことが望まれる。また雪害など火災以外の想定でも訓練やシュミレーションを重ねていくことも大切であり、その取り組みに期待したい。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当法人の個人情報保護に関する基本方針に従い業務に努めています。また、お預かりしている貴重品に関しては金庫にて保管しケース記録書類についても鍵付きの書庫に保管しております。	利用者の気持ちを大切にプライバシー空間や利用者が大切にしたい人とのつながりを尊重した支援を行っている。できていたことができなくなり自信を無くさないよう支援したり、失敗が他の人にわからないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや日々の会話等から思いや希望を見出し、ご本人様のご希望に沿った生活が営まれるよう、支援を行い安心した生活を感じて頂けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個人個人の生活のリズムを大切に、日々声掛け等によりご希望等の確認を行い、ご希望に沿ったサービスを提供すると共に、職員間の情報の共有に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容を行って頂けるよう声掛けや、できない部分に関しての支援を行わせて頂いております。行きつけの商店や理髪店等継続的に利用できます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が行える部分は協力を仰ぎ食事の下準備や調理、助言を頂くよう努めています。職員も利用者様と食事を一緒に召し上がらせていただくことにより、会話への支援や楽しい雰囲気作りになるよう同時に努めています。	畑で収穫したものや旬の食材を取り入れた献立は給食委員会で利用者の希望を取り入れながら作成している。1階の喫茶店の利用や家族を交えた食事会など工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に形態にあった食事を提供させていただき(嗜好に応じて代替え食の提供や、キザミ食やミキサー食の提供等)食事摂取量・水分量の記録を行い、特に水分補給量が少ない場合は、飲水を促すような声掛け等も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにより歯磨きや義歯の清掃などを行って頂いております。口腔清潔や嚥下についての内部研修も実施しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、出来るだけ残存機能を活かしてトイレで排泄して頂くよう支援させていただいております。また、排泄パターンを分析しオムツ外しへの取り組みも積極的に進めています。	入居前にオムツを使用していた場合でも、利用者の身体状況や疾病などを検討し、トイレでの排泄の支援について検討している。一日の中での時間帯による尿量などでオムツやパッド、ポータブルトイレなどを使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄の記録や水分の記録を行い、水分量が少ない時には利用者様の好みの飲み物等、提供し促しています。また、一日に体操やレクリエーションなど身体を動かす時間をつくり健康で過ごして頂けるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご希望がある場合は、毎日入浴して頂くことが可能です。	利用者の希望する一日の過ごし方を確認して活動に支障のない時間にするなど、利用者がリラックスできる時間に入浴するようにしている。同性介助の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂くため、プライバシーの配慮や室温の調整等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服用されている服薬を書き出し、職員がいつでも確認できるようにし、必要事項を記入することによって納豆やグレープフルーツ等の食材が食べられない方への食事の提供を防ぐと共に、代替え食の提供などに努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の居室の清掃や調理や配膳や下膳などを、職員が声掛けし行って頂くよう支援させて頂いております。またケアプランに反映させることによって、意識的に支援していく事を職員にも徹底するようにしております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、希望時には買い物等へ出かけられるよう支援させて頂いております。その他にも散歩の機会を設け、気分転換を図ると共に地域の方とのコミュニケーションも図れるよう支援しております。1階部分の喫茶店利用に関しても、喫茶店職員と連携を図り対応を行っています。	羊蹄山を遠くに眺めながらの散歩や畑での野菜の栽培などを行っている。2階にあるグループホームへの訪問や1階の喫茶店でお茶を楽しむなど、気分転換を行っている。ホテルでの食事会や町内会行事への参加なども取り入れており、来年度は更に外出が楽しみなものになるよう職員が準備を進めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、ご本人手持ち金を持たれています。管理が難しい方についてはお預かりし必要時にお渡ししています。使用した金額など聞き取りしたりし帳簿につけて記録しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話機設置可能となっており、当事業所の電話の使用も可能としご希望時にご家族様やご友人様に連絡可能となっております。事業所の迎えにポストもあり投函もご自分で行えるよう職員が付き添い支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部などには、季節を感じて頂けるようその季節季節にあった飾り付けなどの設えを行っています。施設というより、ご自宅で過ごして頂いているような雰囲気作りにも工夫しています。	居間には見晴らしの良い窓があり、羊蹄山が見える。複数ある食卓は気の合った利用者同士で囲んでいる。季節の飾りや利用者が毛筆で書いたみんなの目標などが掲示され、混乱なく過ごせるよう整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテレビを設置し利用者様同士やお一人でもご覧になっていただいたりお話を楽しんでいただけるよう配置をしています。食事を召し上げて頂く場所との共用のため、どちらも使って頂けるよう声掛けを行い過ぎて頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の面積がゆるすかぎりには、ご本人とご家族様と相談し過ごしやすい家具の配置や使い慣れた家具の持ち込んで頂いております。火器をお持ち込みの場合には、事前の面接やお電話等で説明させていただき、ご理解を得て頂くよう努めています。	利用者の居室はそれぞれが思い出の品や使い慣れた家具などを持ち込んでいる。居室の広さはタイプにより異なるがゆったりしており、クローゼットと洗面台が作りつけられている。居室内も手すりが設置され、安全に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内の廊下・トイレ・浴室等には手すりを設置し出来る限り自立した生活を送れるよう配慮を行っています。		